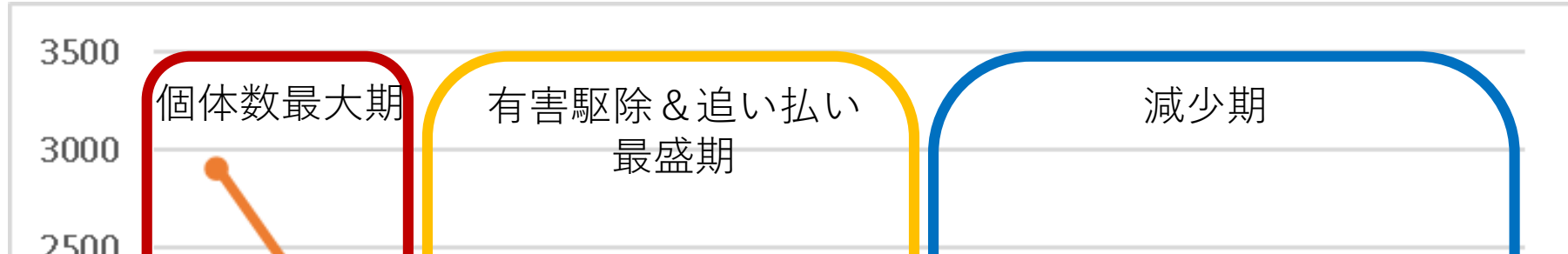


令和5年度

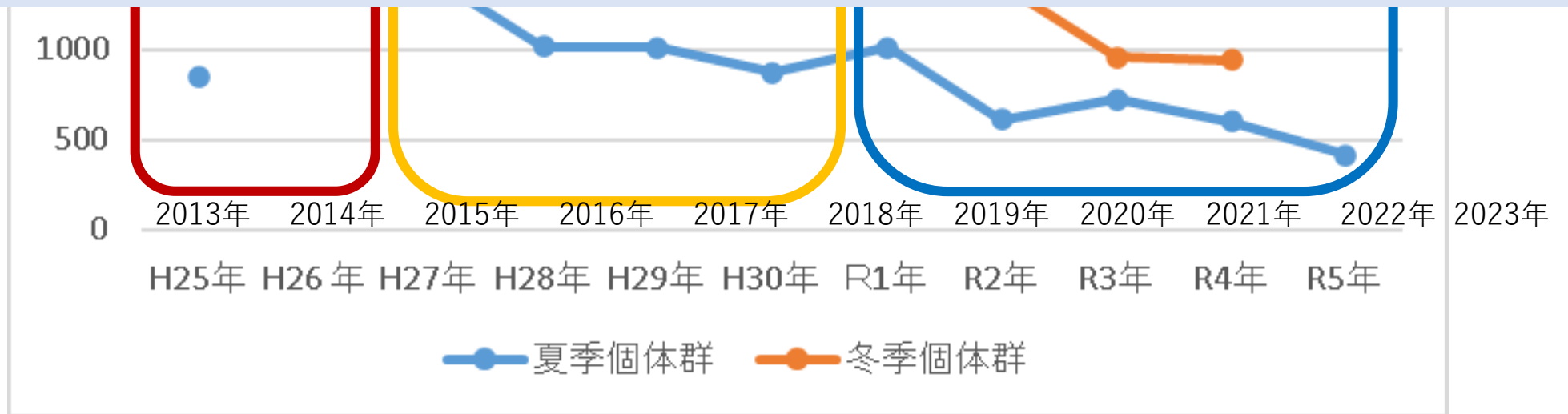
ゴマフアザラシ 広域連携捕獲実証調査報告

特定非営利活動法人北の海の動物センター
東京農業大学生物産業学部海洋水産学科
小林万里

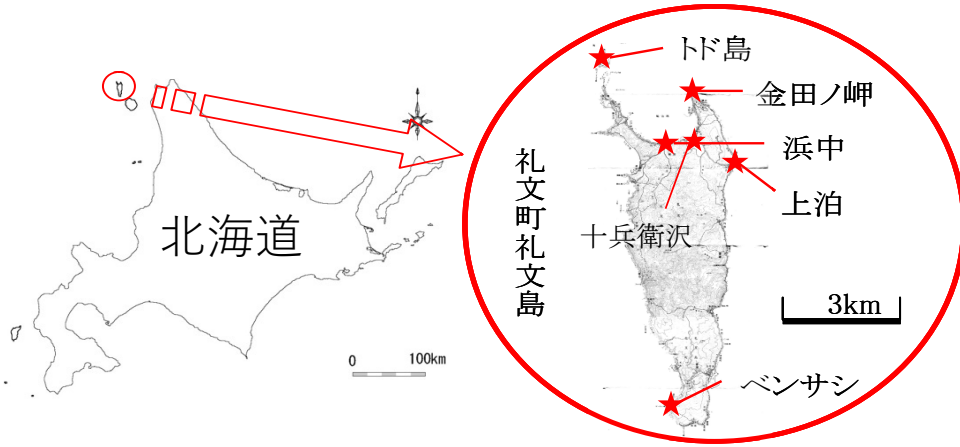
夏季個体群と冬季個体群の関係



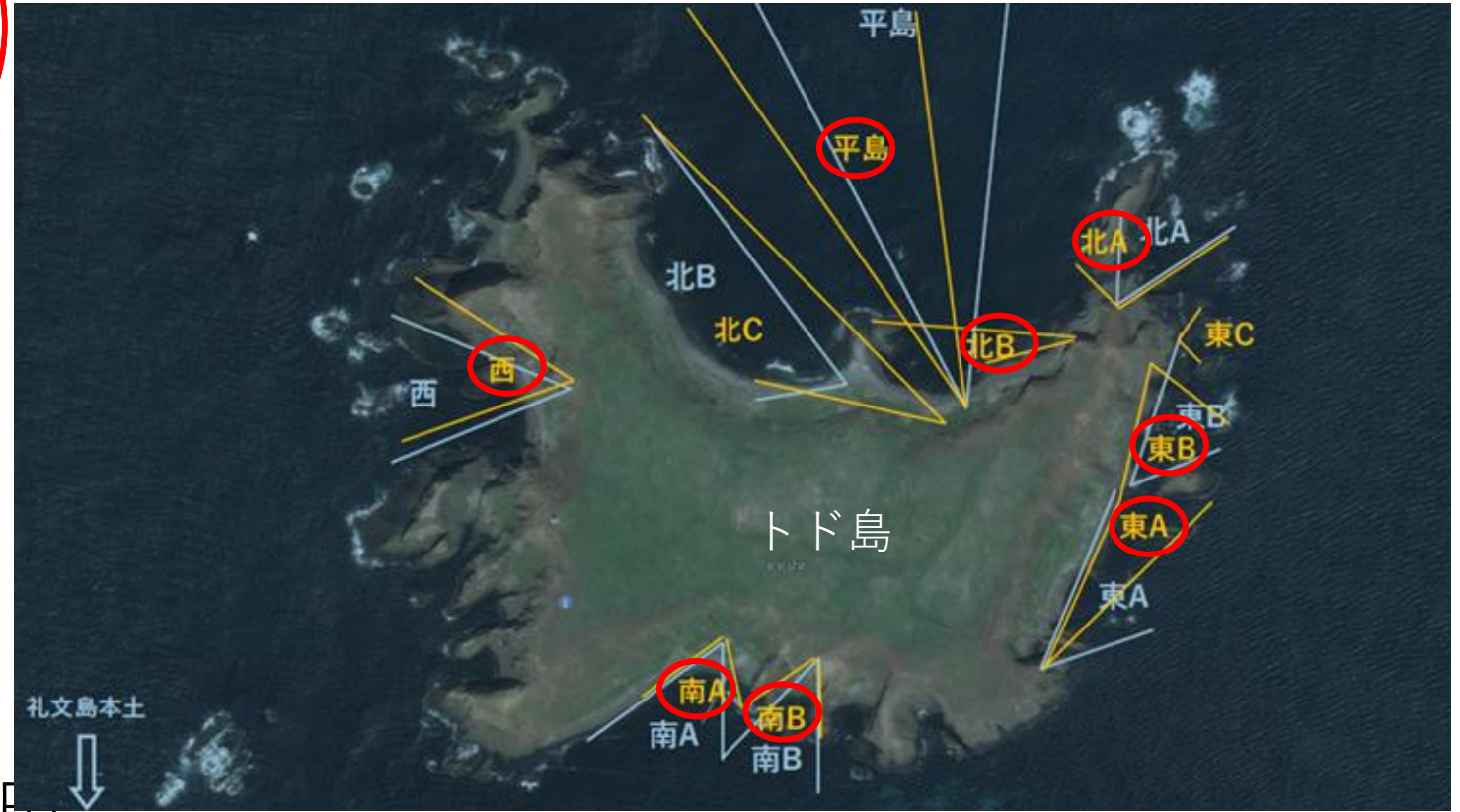
夏季個体群と冬季個体群は相関あり。
→冬季個体が早期来遊、夏季個体は減少



礼文島トド島の上陸場



- 2023年定点カメラ6点設置
→2022年8月の1回目のメンテナンスで北A、
2023年1月の2回目のメンテナンスで南Aを回収中。



礼文島トド島定点カメラ設置地点
水色：2019年8月以前
黄色：2019年9月以降

礼文島トド島の個体数変動の推移

	第1ピーク	第2ピーク
2015/9~2016/8	138 (1月8日)	128 (6月2日)
2016/9~2017/8	342 (12月19日)	×
2017/9~2018/9	176 (1月4日)	186 (3月15日)
2018/9~2019/9	179 (1月8日)	×
2019/9~2020/8	397 (11月22日)	165 (5月18日)
2020/9~2021/8	382 (11月7日)	×
2021/9~2022/8	285 (11月14日)	193 (5月10日)
2022/9~2023/8	245 (11月14日)	144 (5月6日)

トド島はピークが12月~1月から11月へと早まる
利用個体数は、300頭程度と減少
(過去最大2013年の1080頭)

年	月	日	時間	南A	南B	東A	東B	北C	平島	西	合計
2022	10	26	9:50	—	0	29	203	0	0	0	232
	11	14	9:10	—	0	38	207	0	0	0	245
2023	1	9	8:05	—	0	0	77	0	0	0	77
		12	7:04	—	0	0	97	0	0	0	97
		16	7:38	—	56	0	レンズ雪	0	4	レンズ雪	60
		19	8:22	—	0	98	17	レンズ雪	2	〃	117
	2	5	10:30	—	0	28	0	〃	0	〃	28
		6	12:32	—	0	33	0	〃	0	〃	33
		7	12:33	—	0	43	0	〃	0	〃	43
		8	11:35	—	0	38	2	0	0	〃	40
	4	13	12:31	—	0	0	49	8	0	0	57
		15	5:52	—	0	0	25	7	26	レンズ雪	58
		18	5:00	—	31	0	0	0	0	〃	31
		19	10:15	—	0	0	0	0	30	21	51
		24	5:10	—	0	1	レンズ曇	0	22	64	87
			13:36	—	0	4	4	8	32	21	69
		25	8:44	—	0	4	36	30	0	0	70
		26	4:30	—	0	0	0	56	0	0	56
	5	2	9:20	—	0	2	84	19	0	0	105
		3	9:00	—	0	0	20	53	0	0	73
		4	10:04	—	0	0	レンズ汚	76	0	0	76
		5	8:20	—	0	0	〃	51	4	0	55
		6	14:58	—	1	0	〃	0	0	143	144
		7	3:55	—	1	0	〃	0	1	104	106
			5:05	—	1	0	〃	0	1	130	132
		11	4:46	—	21	撮影なし	〃	0	0	62	83
		12	4:37	—	0	〃	0	47	28	6	81
		14	6:26	—	0	〃	0	76	20	0	96
		15	4:59	—	0	〃	0	65	22	0	87
		20	11:33	—	0	0	0	0	0	91	91
		23	4:04	—	0	0	0	0	0	102	102
		30	4:59	—	1	0	0	撮影なし	0	57	58

トド島の利用上陸場

• 2023年も

9月～11月に最大個体数（245頭）


→東Bの上陸場が重要

12月～2月

→東Aの上陸場が重要

3月～6月

→北Cや西の上陸場が重要

 その日の最大上陸場所

季節	主な上陸場	備考
9月～12月 (秋)	東B	現在のピーク
12月～2月 (冬)	東A (南A)	過去のピーク

礼文島の課題

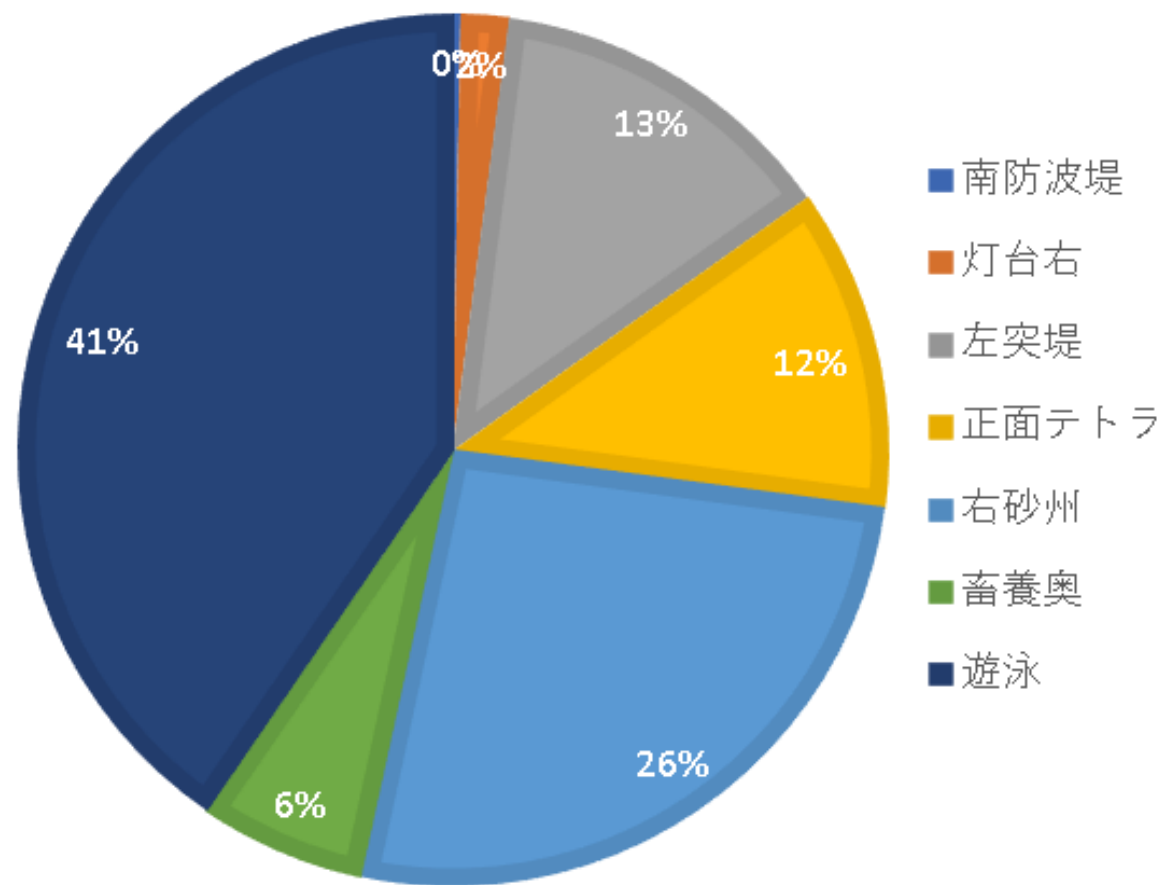
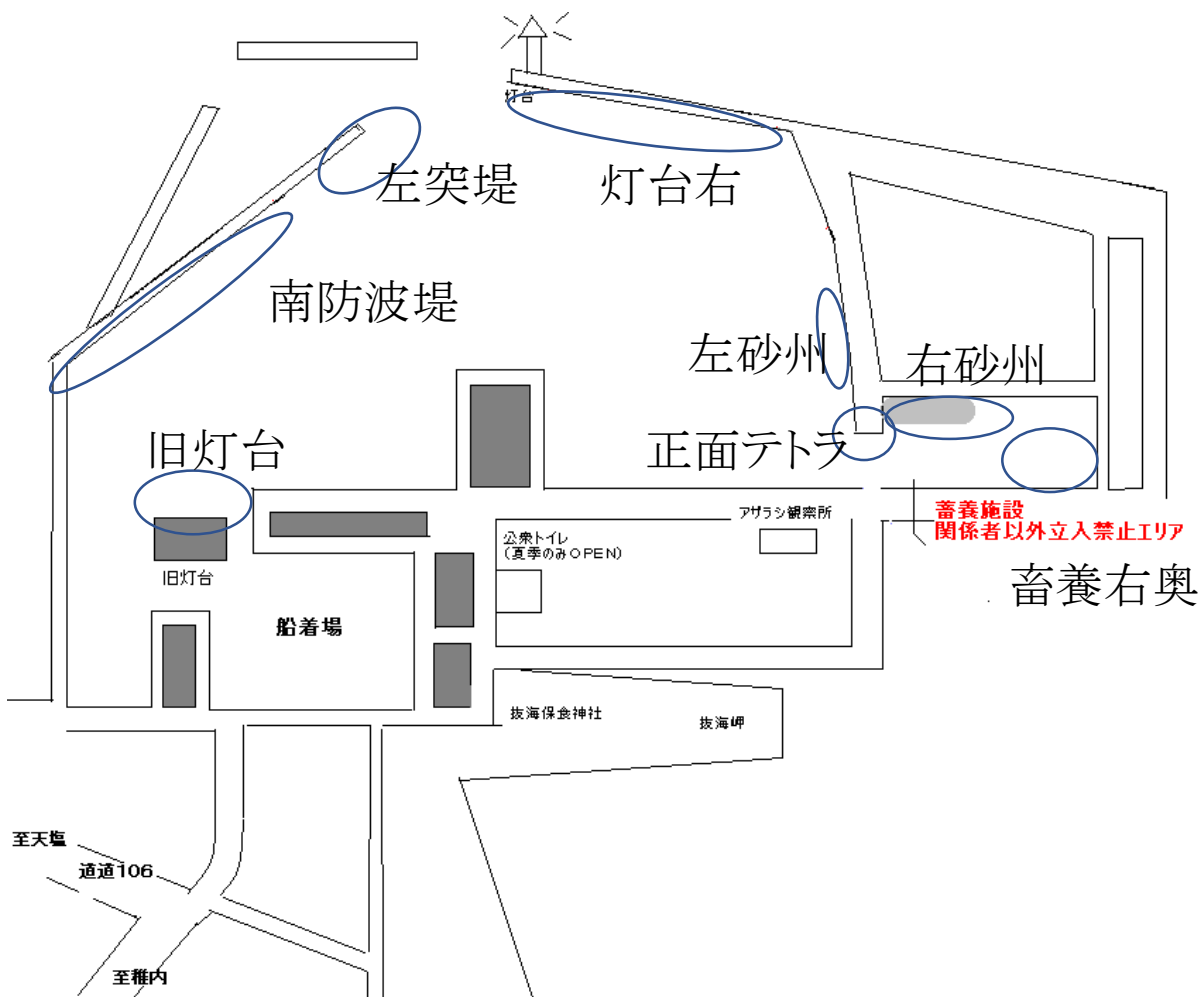
- トド島の個体数は冬も夏も激減→ベンサシが増加傾向？
→2023年にベンサシに定点カメラ設置の必要



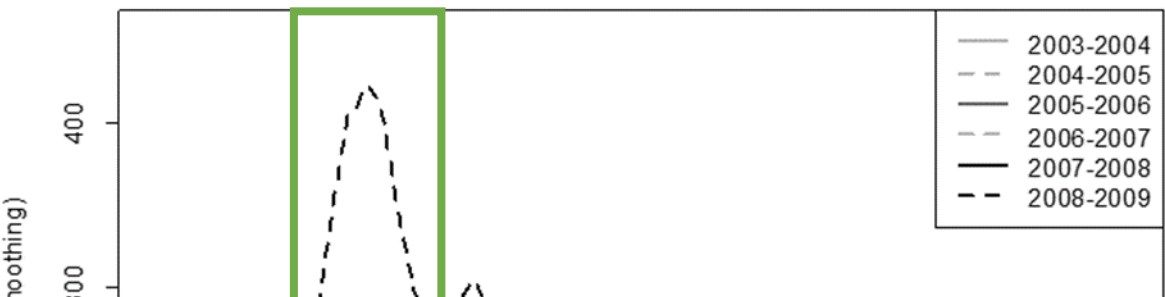
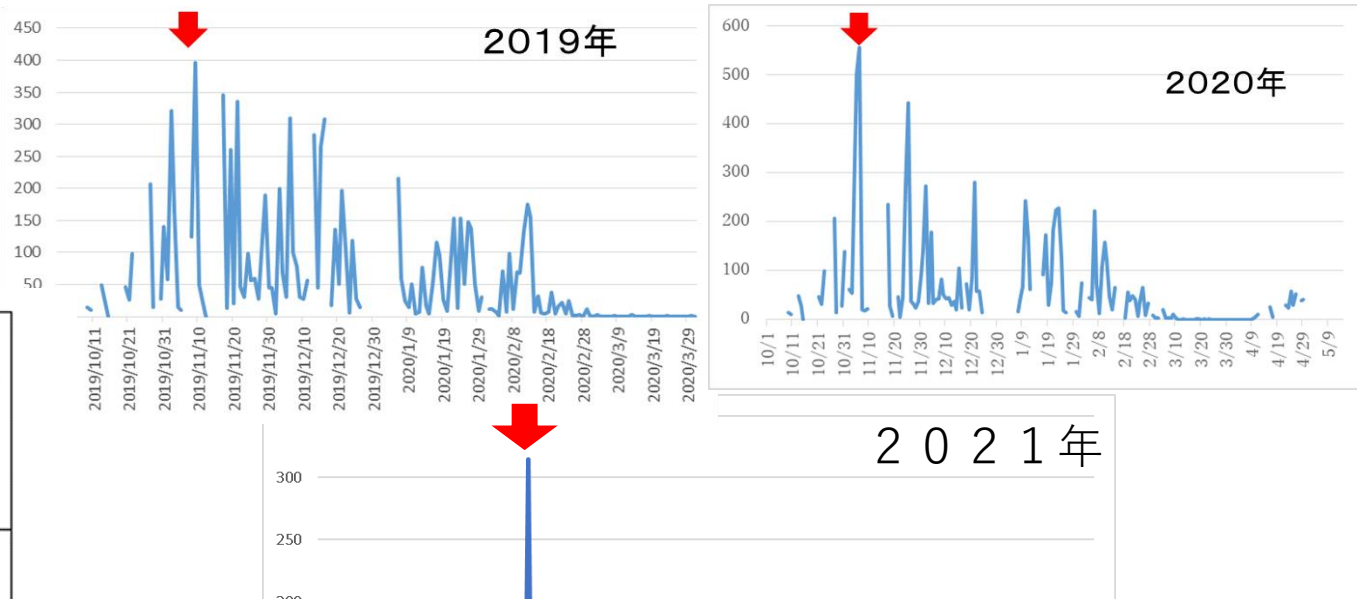
→トド島とベンサシの行き来の検証（発信機）？

抜海の上陸場所

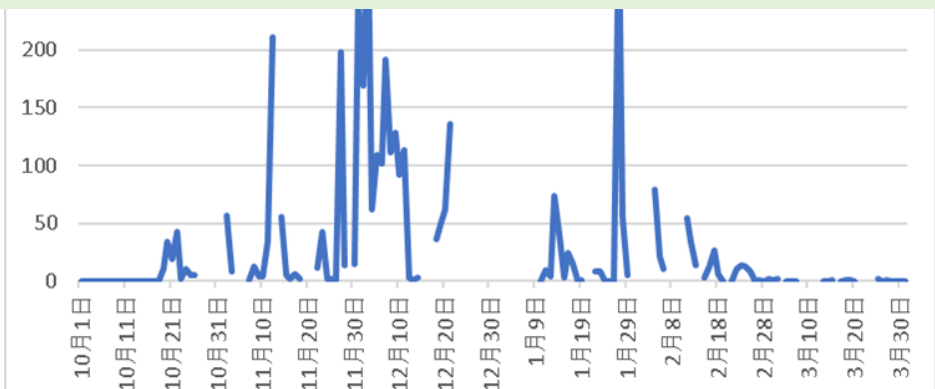
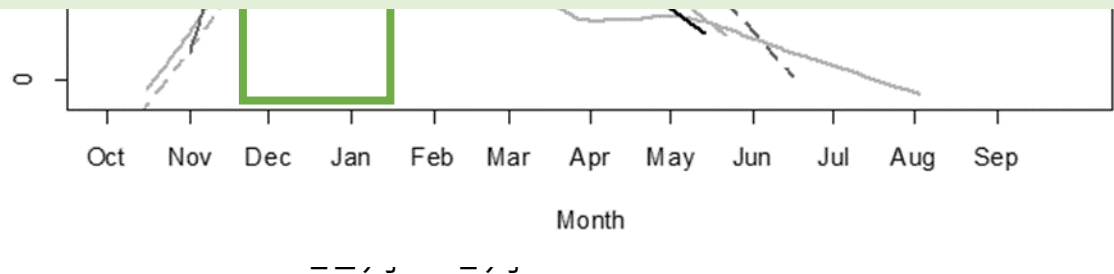
- 主な上陸場所は右砂州



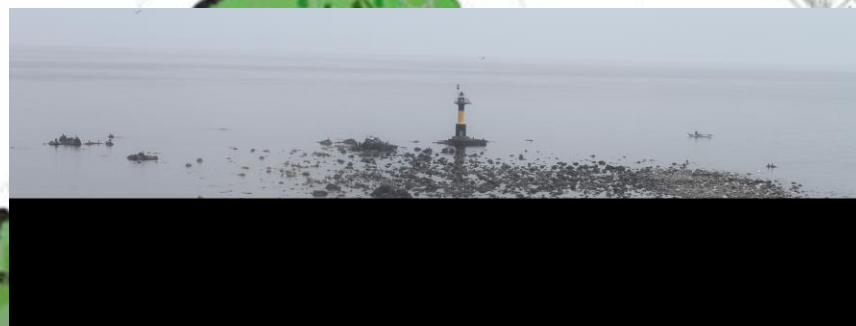
抜海の個体数変動



抜海は、ピークが12月～1月から11月へと早まる
 利用個体数は、300～400頭程度
 (過去最大は1400頭)



天売焼尻の上陸場



白磯地区

赤岩



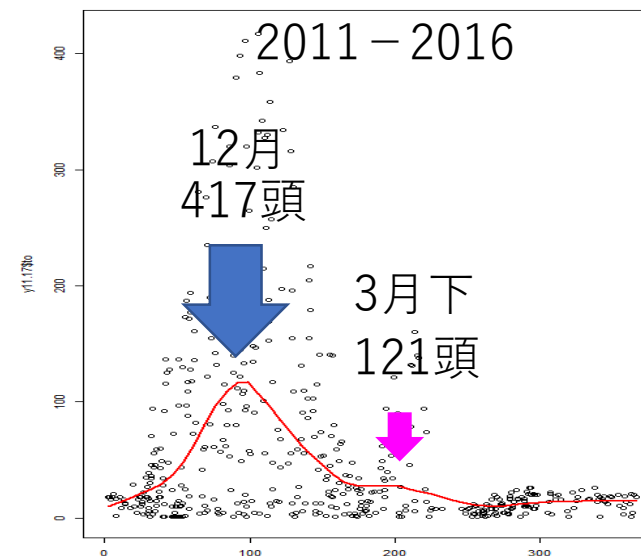
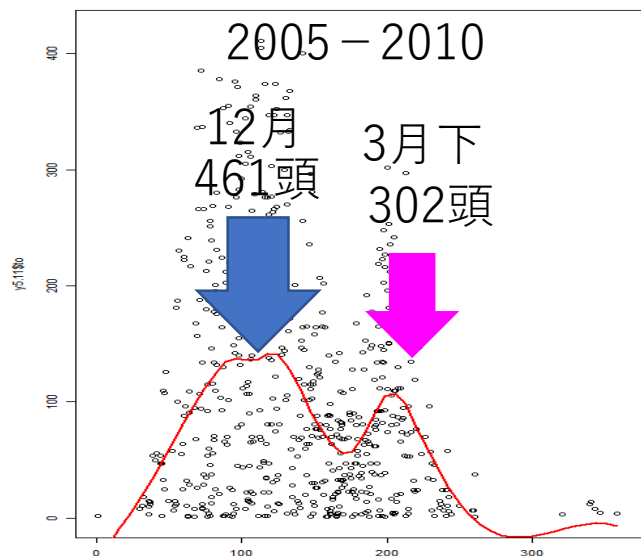
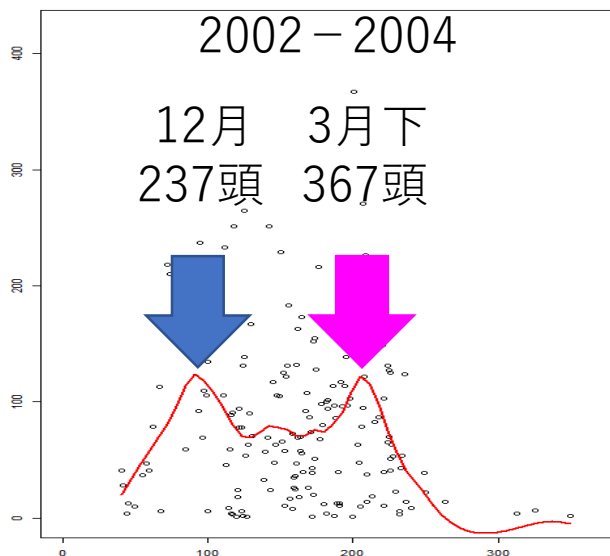
軍艦浜

新九郎岩



天売焼尻の個体数変動の推移

焼尻

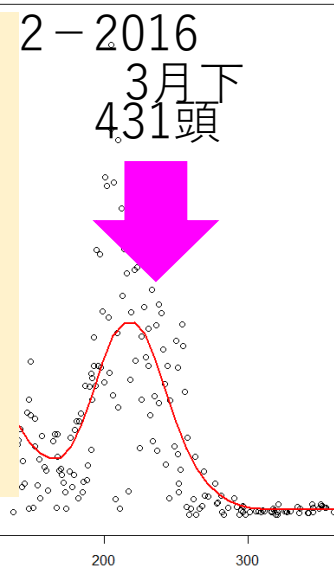


天売

焼尻 & 天売：

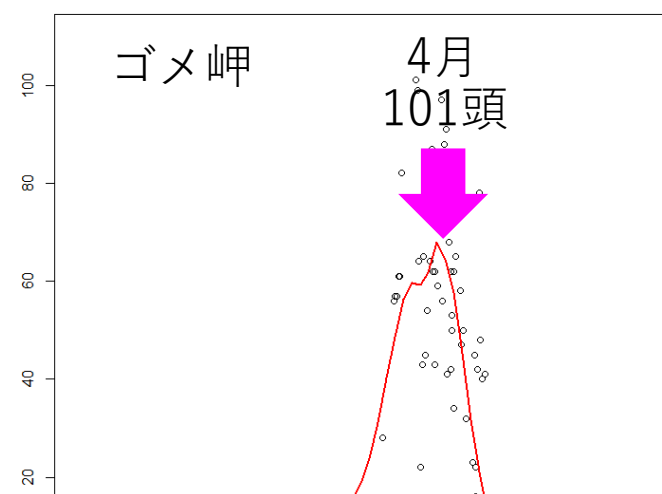
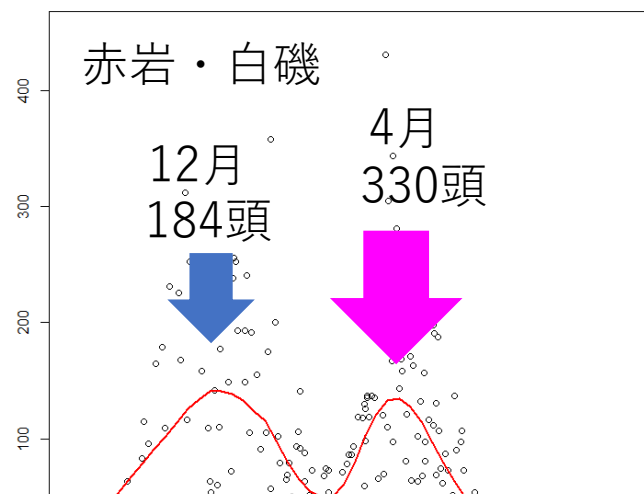
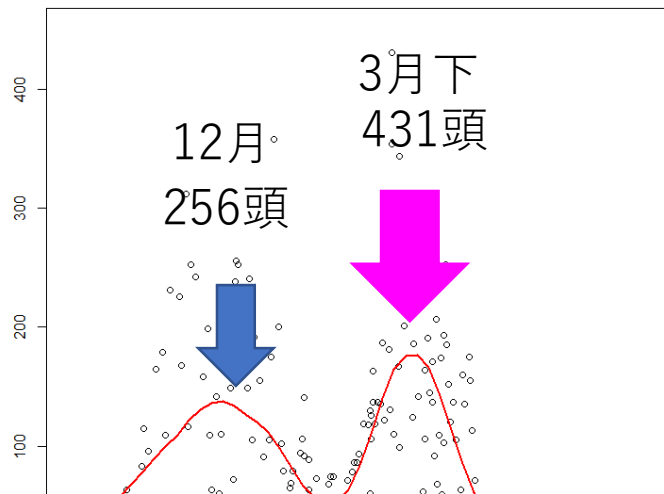
冬と春に利用が多い上陸場

近年、焼尻はよる冬（12月）に利用
天売はより春（3月下）に利用



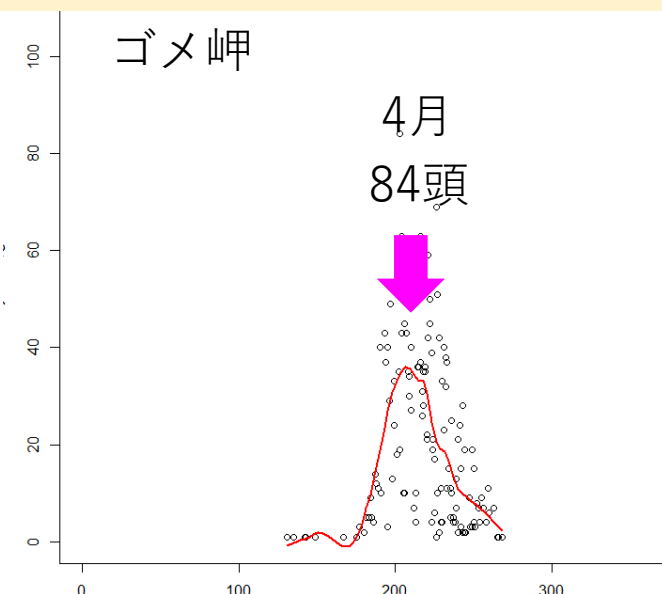
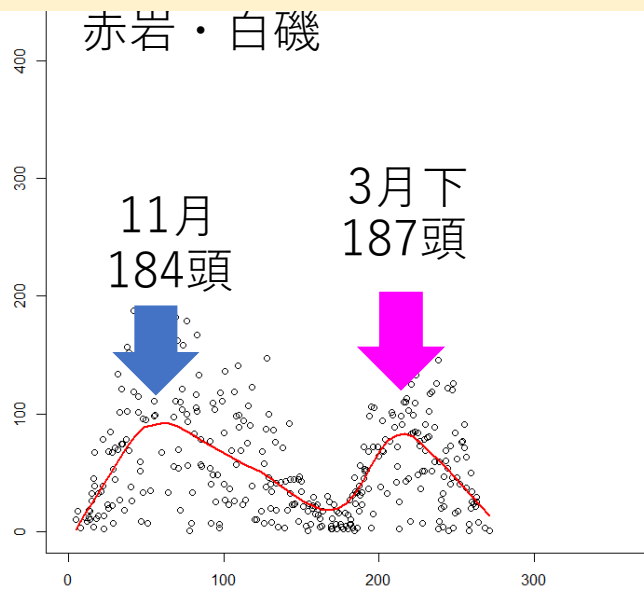
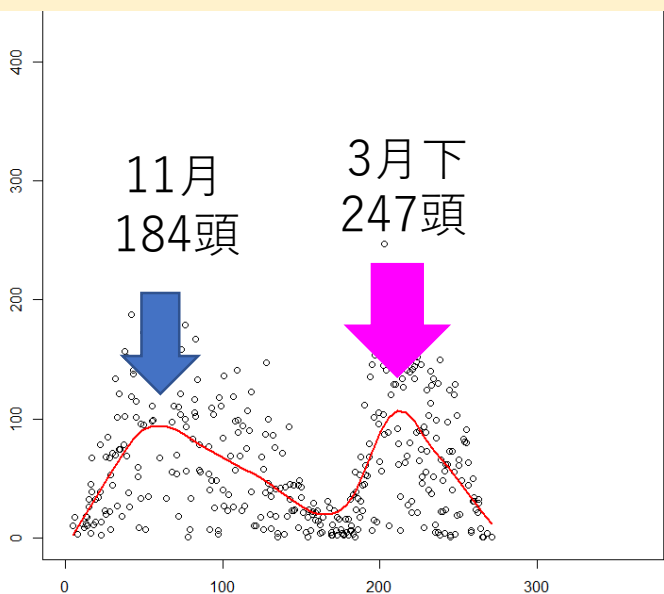
天売の個体数変動の推移

2012 - 2015



天売は春の利用が赤岩&ゴメ岬ともに減少傾向

2015 - 2016



焼尻

年	月	日	時間	新九郎岩	軍艦浜	合計
2022	12	10	7:19	34	50	84
		10	12:39	77	0	77
		20	7:31	0	19	19
		21	8:02	0	18	18
		22	8:54	98	0	98
		27	14:02	103	0	103
		28	9:12	100	0	100
				M S P コシツク 見出し		
2023	1	5	7:48	0	6	6
		6	9:21	5	10	15
		8	9:15	115	0	115
	7	12		—	0	0

天売

年	月	日	時間	赤岩白磯	ゴメ岬	合計
2022	12	12	12:54	150	0	150
		27	13:03	200	0	200
		28	10:04	228	0	228
2023	1	7	12:05	130	0	130
	4	15	6:24	66	8	74
		18	7:25	68	31	99
		25	8:25	69	28	97
	5	1	9:39	64	39	103
		5	8:12	87	29	116
		6	9:04	43	23	66
	9	5	7:56	0	1	1

焼尻は冬のみ利用で利用個体も合計100頭程度
天売は冬と春利用で、冬は150頭・夏は100頭
ゴメ岬の個体数（30頭程度）は減少傾向

新たな上陸場調査結果 (稚内・礼文・利尻・宗谷・猿払)

・ 稚内・宗谷

⇒未だに、アザラシの増加、
長期滞在があり、被害も多い
(特に定置網)

新上陸場：声問岬(稚内)

・ 礼文・利尻・猿払

⇒全体的にアザラシは減少、
被害も減少

それに代わってトドが目立つ

新上陸場：モッケ岩・ゴロタ浜(礼文)



留萌の新たな上陸場（留萌漁港）



- 2022年度から確認。
- 2023年12月では、150～200個体確認。

まとめ

- 冬季利用個体数と夏季利用個体数は相関あり
 - ☞ 冬季個体も夏季個体も減少
- 夏季利用個体数は、ほぼ0（礼文の十兵衛沢以外）
 - ☞ 2023年に定点カメラ設置
- 冬季利用個体数は、どこも最盛期よりも減少
 - ☞ しかし、冬季個体は早くから来て早くに移動傾向
 - ≡ 10月の終わりは、早期冬季集団？
 - ≠ 夏季利用集団（8月～10月）

ゴマフアザラシの近年の情報

- 留萌港で観察・・・多い時には200頭超え？



消波ブロック
ソファ代わり

留萌 ゴマフアザラシ越冬

本格的な冬を迎え、道内のロシア領海には今年もゴマフアザラシが越冬のため、滞在してきている。

- 野付湾でも冬季個体が早くから200~300頭来遊

増えた？

・・・被害が

人が近づかない安全な場所に移動？！

👉 広域な管理が必要



アザラシがくつろぐ留萌港の消波ブロック＝留萌市

アザラシや、黒潮のメダカなどが、かつての花岡海岸のすぐ沖の陸岸にも集まっている。こうした光景は、いまではすっかり日本海の冬の風物詩で、ロシア・サハリンなどへ北上する来春まで見られる。
(奈良川 祥俊)

